

うち

# 「宇智の大野」

うまな

たまきはる 宇智の大野に 馬並

あさふ

くさふかの

めて 朝踏ますらむ その草深野

作者 不詳（巻一—4）

（解説）この朝、宇智の原野で、天皇は従者とともに馬を並べて今しもいっせいに狩に踏み立てておられるであろう。その草深い野よ。

- 1) この歌の題詞は「高市たけちの岡本宮に天の下知らしめす天皇の代じよめいてんのう（舒明天皇）—天皇、宇智の野みかりに遊獵したまふ時になかつすめらみこと 中皇命が間人連老をしてはしひとのむらじおゆ 献たてまつらしめたまふ歌」という長歌にあわせた反歌である。詠者は諸説があり明らかでないとの説が多い。

- 2) この歌は、舒明天皇が宇智野に狩獵に赴いたときに作者は狩場に臨んではいなく。都など他のところで狩の場所、状況を推測しながら歌ったものであろうといわれる。

- 3) この狩獵の場となった宇智野は大阪府と奈良県にまたがる。

る標高一二五メートルの金剛山の東・奈良県側の山裾にゆったり広がるなだらかな台地がある。そこは万葉時代に「宇智野」と呼ばれた地で、現在の奈良県中西部に位置する五條市の北部にあたるＪＲ和歌山線「北宇智駅」（五條市近内町）西方一帯を指すといわれる。

4) 五條市は古代には紀伊、伊勢、大和、熊野を結ぶ古代の官道の要衝として、また吉野川（紀ノ川）の中流に位置していることから、水路交通の要地として多くの人々が集う場所であった。また、宇智野は万葉時代は格好の狩猟の場であったと伝えられている。

（参考文献）

・米田勝著「万葉を行く」・中西進著「万葉こころの旅」等

(写生地)

JR和歌山線「北宇智駅」から西へ約一キロほど行くと  
金剛山の麓に広がる丘陵地の一部を切り拓いて建てた北  
宇智小学校（五條市近内町）がある。この小学校の横地  
から古代の狩猟地であったであろうと思われるゆるやかな  
登り坂に耕している畑地及び北宇智地域の集落と背景  
に金剛山連峰を描く。（池田杏花）

